

徳川家康公 と駿府

Tokugawa Ieyasu in Sumpu



2007年に開催された「朝鮮通信使400周年記念事業」では、5月19日・20日に駿府城と清見寺の周辺で朝鮮通信使の行列が再現された。

金
両
基
氏

比較文化学者・評論家・哲学博士

Kim Yangki



経歴

1933年、東京生まれ。早稲田大学卒業。韓米の大学教授を経て、静岡県立大学・常葉学園大学教授。『キムチとお新香〜日韓比較文化考』『能面のような日本人』『物語韓国史』ほか、日米韓中語の著作多数。韓国文化勲章、韓国KBS海外同胞賞、文化庁芸術祭最優秀賞、静岡県知事表彰など。

朝鮮王朝との国交を回復した家康

徳川家康との深い縁は朝鮮通信使である。

一九八七年、静岡県立大学開学時に教授として赴任したわたしは、SBSがソウルオリンピック開催時に制作した日韓テレビブリッジの番組にかかわった。そのとき清見寺の朝鮮通信使の文化遺産をスクリーンに映し、ソウルのスタジオと家康の発信した善隣友好の歴史を語り合う予定でいた。ところが番組がスタートする直前に映像が使えないと言っているのである。司会を兼ねていたわたしは声が変わるほど驚いたが、SBSも静岡新聞の文化部でも朝鮮通信使のことがわからず撮影に行かなかったのである。

家康の本拠地で朝鮮通信使の歴史を蘇らすのにそれから二十数年かかった。二〇〇二年開催の「東海道400年祭」

の実行委員に委嘱されたわたしは、委員会で朝鮮通信使再現の提案をしたが、歴史学者もいたが反応は薄かった。が、わずかな予算を得て「静岡に文化の風を」の会と在日コリアンが一緒になって静岡で初めての再現行列が実現する。

そして二〇〇七年には朝鮮通信使400周年記念事業を静岡県静岡市日本市民・在日コリアンが一体になって二日間行い、大成功という賛辞が轟く。こうして家康が発信した善隣友好の証である朝鮮通信使の歴史が静岡で蘇り、全国に韓国に広く知られるようになった。その実行委員長を務め終えたとき、天を仰いで「天よありがとう、家康よありがとう…」と唱えた。

関ヶ原の戦いに勝った家康は、秀吉の侵攻で断絶していた朝鮮王朝との修好回復を宗義智対馬藩主に秘かに命じ